



「10年後の姿」を見据えて  
今のあり方を定め 取り組む  
～平成28年度教育課程の編成にあたって～

【学校教育目標】 心豊かで 自ら学び、共に考え、行動する子どもの育成	
(は) 働かせよう ころろ・あたま・からだ (な) なかまと ともに (さ) さいこうの 自分をめざして (く) くるしいことにも 進んで挑戦する (き) 今日、この今を せいっぱい	→体を鍛える子ども →仲よくする子ども →よく考える子ども →努力する子ども →成長を実感できる子ども

校訓

学校の教育は、様々な目的の達成のために行われています。そして、その目的とは、目の前の子ども達によりよい成長をめざすために行われるものです。目的達成のための方法は様々ですが、学校に長く受け継がれ大切にされてきた思いがあるものです。それは、莊原地区住民の皆さんの学校教育に対する思いであり、期待です。

本校には、それをまとめた「校訓」「校歌」「合い言葉」とともに、「至誠報徳」「進歩の一日に」「みんな少年花咲く樹今日も元気に」の3つの言葉が刻まれたプレートや銘板が残されています。

私たち莊原の教育に携わる者にとって、「莊原の子ども達を、どのような大人に育てていくのか」は、これらの中にすでに明らかにされています。今年度の教育活動を始めるにあたって、再度確認しておきたい言葉とその思いです。



○「命を育む」＝自分が使える時間を人のために使える子  
限られた時間を、自分ではない他の人のために、他の人に喜んでもらうための時間に惜しみなく使おうとする子ども達。自分の成長のために黙々と取り組む時間を大切にしていること。

「二宮金次郎像に込められた「至誠報徳」の姿に学ぶ

○「志をもつ子ども」＝自分の役割を知り、行動を選べる子

上学年は、下学年の「よき先輩」としての役割を日々の言動で示している。それが莊原の子ども達の伝統となっていく。期待されているから伸びる。「やりたいこと」や「やらねばならないこと」を一人一人がしっかりもっていること。

「進歩の一日に」するための合い言葉



○「仲間とともにある子ども」＝仲間を気にかける子

学級集団や縦割り集団の中で、困っているとちを絶対一人にしない。「声をかける、そばに寄りそう、守る」「あなたの話が聞きたい」「互いに競って磨き合う」子ども同士が教え合い、助け合い、支え合って伸びる機会が日々の生活にあふれていること。

「花咲く樹」は、咲き競ってこそ美しい

